

チョーライ病院向け病院運営・ 管理能力向上支援プロジェクト

2018年1月

1. 国際化学療法・感染症学会で感染制御部の Dang Thi Van Trang 医師が発表

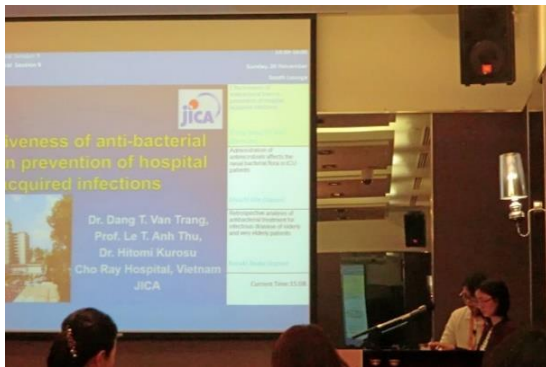
感染管理・看護管理 黒須 一見

2017年11月24～27日に台北市において開催された「第30回国際化学療法・感染症学会 (ICC 2017)」に、カウンターパートであるチョーライ病院感染制御部副部長の Dang Thi Van Trang 医師と私とで出席してきました。

本学会では、アジア太平洋感染制御学会 (APSIC) や台湾微生物学会とのジョイントセッションもあり、最新の情報を得るのに非常に有効でした。口頭発表が93題、ポスター発表は1,200題を超えるなど、世界中から多くの参加があった中、当プロジェクトの支援で Trang 医師も口頭発表を行う機会を得ました。



ICC 2017 主会場



オーラルセッションで発表する Trang 医師

Trang 医師はオーラルセッションにおいて、大勢の聴衆の前に、「Effectiveness of Anti-bacterial Linen in Prevention of Hospital Acquired Infections (院内感染予防のための抗菌リネンの有効性)」をテーマとする発表を行いました。

この発表の準備にあたっては、当プロジェクトとして全面的に支援し、何度も打合せを行い、事前のリハーサルも行った上で臨んだものです。Trang 医師は見事に大役を果たし、JICAとチョーライ病院との協力を大いにアピールしてくれました。

学会運営で参考になったのは、受付すぐの場所に参加者がサインをするボードと出身地をマーキングする世界地図のボードが設置されていたことです。どの国からどのくらい参加しているのかが一目瞭然でわかりやすいばかりでなく、各自がサインすることで参加意識が高まるような工夫がされていました。また、学会開催前から、メールでリマインドが頻繁に送られ、期間中もメールで当日のセッションの案内が届きスケジュールが確認できるなど、様々な工夫がありました。

2019年にはベトナムで第9回アジア太平洋感染制御学会 (APSIC 2019) が開催され、チョーライ病院感染制御部の Le Thi Anh Thu 部長が大会長を務めることになっています。その際には、チョーライ病院の感染制御部が主導的な役割を担うことが期待され、この度の学会参加の経験が十分に活かされるものと思っています。



マーキングボードの世界地図

Dang Thi Van Trang 医師の感想:

“私は、今回 ICC 2017 国際会議に参加し、発表する機会をいただきました。今回の会議を通じて、感染管理に関する新しい知識や、世界の様々な地域の参加者からの実践的な経験を学びました。今回、私は病院で行われた抗菌リネンの有効性に関する研究結果を発表しました。発表後に会場の参加者から多くの質問をいただき、非常にうれしく思っています。JICAの支援と、一緒に参加してくれた黒須専門家のおかげで、このような貴重な経験をさせていただき、とても感謝しています。”



ICC 2017 会場前にて

2. 忽那賢志短期専門家(感染症治療)が抗菌薬適正使用について講義

12月18～26日、忽那賢志(くつな さとし)短期専門家(国立国際医療研究センター病院国際感染症センター医師)による今年度二度目の活動が行われました。

同専門家は6月の第1回目の派遣時に引き続き、主に抗菌薬適正使用(Antimicrobial Stewardship)に関するチョーライ病院側との協議及び技術的なアドバイスを精力的に行いました。

12月20日に開催された感染対策講習会では、院内の抗菌薬適正使用委員会のメンバーである医師・薬剤師約100名を対象に、「感染症コンサルテーションとAST(Antimicrobial Stewardship Team)の役割」と題する講義を行いました。



感染対策講習会で講義する忽那専門家



集中治療室(ICU)におけるラウンド

同講習会において忽那専門家は、日本における抗菌薬適正使用の状況について紹介し、モニターすべき指標(届出抗菌薬の届出数、カルバペネム使用症例の培養提出率、耐性菌が検出された事例等)、介入すべき症例(許可制抗菌薬を使用する症例、カルバペネム長期投与例等)、及びフィードバックのあり方(段階的縮小、抗菌薬中止等)について提示しました。

また、22日には、整形外科の医師・看護師を対象に、手術部位感染(SSI)対策について講義を行いました。講義の後のディスカッションでは、特に、十分な創部洗浄と適切なタイミングでの周術期抗菌薬投与の重要性を強調しました。

3. ラムドン総合病院の訪問 -安全な搬送のために-

JICA在外インターン(医療職) 稲田 麻衣

JICAインターンの稲田麻衣と申します。1月3日から3月30日までの予定で、チョーライ病院プロジェクトで活動しています。

1月10～11日、和田チーフアドバイザー、森山専門家、チョーライ病院救急科 Le Phuoc Dai 医師、同看護部 Dong Nguyen Phuong Uyen 看護師とともに、ラムドン省ダラットにあるラムドン総合病院を訪問しました。ラムドン省からの患者さんは、救急車で約6時間をかけてチョーライ病院まで来るようです。

病院では、副院長、クオリティ・マネジメント部長、救急部長他から病院の概要について説明を頂いた後、救急外来、ICU、救急車を見せて頂きました。また、現場の医師、看護師の方々とも直接対談し、患者の病状の評価、急変リスクのアセスメント、医療機器や薬剤の準備など、安全な患者搬送のために日頃から取り組んでいることについてお話を伺いました。一方で、移動する救急車内での患者のケア、急変に対する治療、家族への対応を看護師1人でマネージメントしていることに大変さが伺えました。改善可能な点として、搬送準備のプロセスの可視化、患者の病状評価の標準化、搬送中の患者状態の記録と共有ができれば、さらに安全な病院間搬送が可能になると考えています。

今後も、他の省病院への訪問を予定しています。このインターン期間を通じて、搬送の現場で活用できるツール(必要事項チェックリスト、搬送記録表等)の作成についてカウンターパートと話し合っていく予定です。

稲田麻衣医師プロフィール:

日本救急医学会救急科専門医。2010年大分大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院救急科、兵庫県立加古川医療センター救急科を経て、現在 Swiss Tropical and Public Health Institute 修士課程(Business Administration in International Health Management) 在学中。



ラムドン総合病院にて(中央が筆者)

今後の予定:

2月25日～3月2日 橋本理生 短期専門家(呼吸器内科、国立国際医療研究センター 医師) 来訪

3月4日～3月10日 町田二郎 短期専門家(クリニカルパス、済生会熊本病院 副院長・医師) 来訪

独立行政法人 国際協力機構(JICA)

チョーライ病院向け病院運営・管理能力向上支援プロジェクト

事務所: 10F, Block D, Cho Ray Hospital, 201B Nguyen Chi Thanh, District 5, Ho Chi Minh City, Viet Nam

Tel: 028 3620 5032 (直通) E-mail: chorayjica@gmail.com

ホームページ: <https://www.jica.go.jp/project/vietnam/044/>



(編集責任: 業務調整 松本丞史)